

# お酒落 サプリメント

④

## たんすの中の洋服を 復活させよう！

60年代に一世を風靡した「アイビールック」の生みの親であり、日本のメンズファッションの草分けでもある故・石津謙介氏は、「ファッションとは衣・食・住・遊、ライフスタイル全般のことである」と語っています。この言葉に少なからず影響を受けた当時の学生＝団塊世代以下の男性には、比較のおしゃれな方も多いようですが、加齢とともに人と会うことや出かけることが少なくなると、「どうでもいいや」の気持ちも芽生えてしまうのでしょうか。おしゃれに無頓着になりがち傾向には閉口しています。おしゃれとは、流行や一流のものを着ることをいうのではなく、まずは身だしなみを整えること。自分のためであると同時に、他人へのマナーであると考えてください。私自身、元アパレル関係という仕事柄、普段から身だしなみには気を配っていましたから、外見から受ける印象で、随分と得をしたように実感しています。そこで今回は、「ベーシックなおしゃれ」をテーマに、昔懐かしい「紺ブレ」をはじめとした、リバイバルファッションの一例をご紹介します。

**1** シングルの紺ブレは世代を超えたジャケットの定番。チェックのシャツにヘンリーネックのベスト、グレンチェックのパンツで、カジュアルな組み合わせのお手本のような着こなし。

**2** ダブルの紺ブレは硬いイメージを持たせないおしゃれがコツ。ストライプのシャツ、ジャガード織のしゃれたラウンドネックセーターの組み合わせにパンツはオーソドックスなグレーのフラノで。

**3** 流行に左右されない柄として親しまれている、ヘリンボーンのツイードブレザー。素材そのものが地味な雰囲気なので、カジュアルに着こなすにはシャツが決め手です。大柄のシャツ、前開きベストが大人の雰囲気を醸し出します。

**4** 遊び心を演出したい方には、インナーにカラフルなセーターやベストを組み合わせるとはいかがでしょう。チェックのダブルジャケットにファスナー付きの柄物セーター、コーデュロイのパンツがおしゃれ。

以上、どのスタイルも、たんすの中で眠っていそうなものばかりの組み合わせです。皆さんも当時の思い出に浸りながら、コーディネートを楽しんでみませんか。「温故知新のおしゃれ」で、身も心もあたたかく過ごしましょう！

